

算数のよさを、指導しましょう。

石井康雄（前船橋市立金杉台小学校 校長）

Q

1年生「かずしらべ」は、どのように教えたらよいでしょうか？

A

この学習は「D データの活用」領域に属しています。子供たちは、日常生活や学校生活で、ものの個数を比べることは経験していても、ものの個数を絵や図を用いて表現する経験がありません。そのため指導の難しさは、形も大きさも違うものの数量に着目し、並べて比較する必要感をつかませ、算数の学習につなげていく点にあります。

P26の挿絵では、ランダムに果物が載っています。初めは吹き出しにあるように、たくさんとれたという実感を味わわせましょう。その後、果物の個数を比べてみたいという発想をさせるには、「みんなだったら、どれを食べてみたいですか」と聞いてみましょう。すると、子供たちは食べたいものを発言しますが、「数が違うので、じゃんけんになる」や「メロンやりんごはじゃんけんになる」のように個数の違いに目を向けてきます。そして、「どの果物が一番多いでしょう」や「数の大小が一目でわかるようにするにはどうすればよいでしょう」などと発問することで、比べるために並べていこうという必要性が出てきます。

P26の下段では、どうぶつの吹き出しの内容が子供から出てくるように果物が並べてありますので、この通り指導していきます。りんごやみかんの半具体物を挿絵の



ような大きさに用意しましょう。並べるときには、お皿の果物に印をつけながら、落ちや重なりがないように注意させます。その結果、大きさが異なるので個数が比べにくいという実感がわいてきます。そこで、果物の大きさが同じならば比べやすいと判断させましょう。

P 27では、数を整理して調べていきます。教科書の縦長の図（絵グラフ）は、多くの学級で教室に掲示してある「お誕生日列車」と照らし合わせて指導するとよいでしょう。えんぴつくんの吹き出しのように、図には下から色を塗らせますが、このことは子供たちに考えさせましょう。これは比較するときの基準になる部分であり、この見方・考え方は大きさ比べでの既習事項になります。

㊸、㊹以外にも、数の違いを問う「りんごはメロンより何個多いですか」とか「バナナとみかんの数の違いは何個ですか」や「メロンは、あと何個で10個になりますか」などの質問をしてもよいでしょう。さらに㊺では、他にも気が付いたことを言わせていきますが、「かずしらべ」の学習とは無関係な答えが出ないような補助発問を用意しておきましょう。そして、「大きさを揃えると一目で数の大小を比べることができる」と答えさせます。

P 29の㊻は、この問題の仕方がわからないと、子供はでたらめな解答をします。最初に練習として、一か所だけ全員で解かせるとよいでしょう。また、㊼は難問です。子供から答えの理由を引きだして、全員に表現させましょう。2年下P 112「何番目」の学習の基礎になります。

